

情報端末フォーラム 2026

Beyond Devices – AIで拓く、情報端末産業の新領域と価値創造

2025年 プリンター新製品動向 と プリンター技術動向

プリンター専門委員会 技術分科会

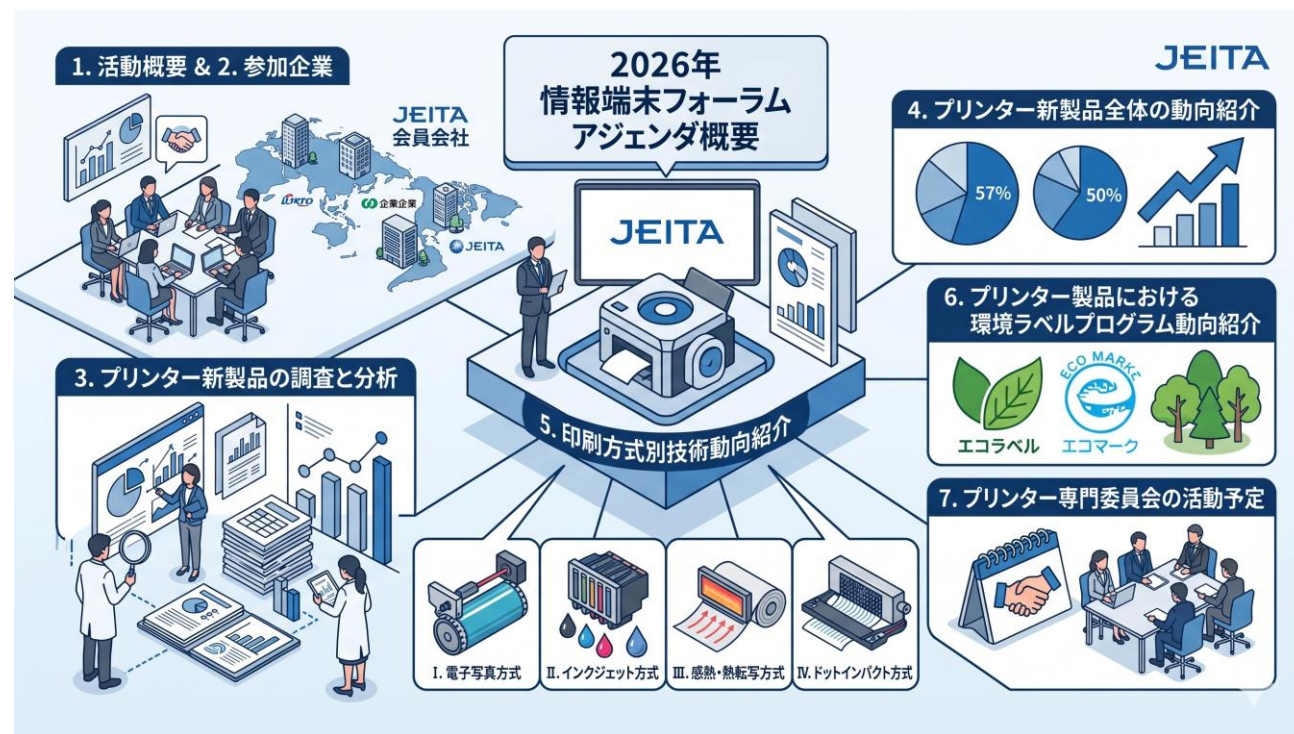
委員長

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 直田 智義

2026年 7月 17日

JEITA 一般社団法人
電子情報技術産業協会

1. 活動概要
2. 参加企業
3. プリンター新製品の調査と分析に関して
4. プリンター新製品全体の動向紹介
5. 印刷方式別の技術動向紹介
 - I. 電子写真方式
 - II. インクジェット方式
 - III. 感熱・熱転写方式
 - IV. ドットインパクト方式
6. プリンター製品における環境ラベルプログラム動向紹介
7. プリンター専門委員会の活動予定
8. 『プリンター技術に関する調査報告書』 サマリー



1. プリンター専門委員会 技術分科会 活動概要

1. プリンター新製品調査

日本国内で 2025 年（1月1日～12月31日まで）に発売されたプリンター新製品の技術仕様を調査し、各種技術動向を分析して、『プリンター技術に関する調査報告』としてまとめた。

2. 商業・産業用プリンター製品領域への拡大

- 従来のオフィス向け製品に加え、商業・産業用途で使用する製品や、紙以外のメディアを取り扱う製品へも調査範囲を拡張した。
- アナログ印刷とデジタル印刷の境界領域における技術的・経済的要因を把握するため、北國新聞社での工場現場視察を実施した。

3. SuMPO環境ラベルプログラム対応製品の調査・分析

- GXに関連する継続調査として、本プログラム対応製品の登録機種数、印刷方式、気候変動（CFP）等の情報を整理・分析した。
- 製品ライフサイクル全体での環境負荷の可視化や、プリンター製品における環境情報開示の業界動向を確認した。

4. プリンター市場分科会との連携

定期活動報告会を開催し、市場分科会が進める「業種別プリンター製品利用形態調査」と、技術分科会の「商業・産業用領域への拡大調査」を相互に関連付け、今後の活動拡大に向けた議論を深めた。

5. WG（ワーキング・グループ）およびその他の主要活動

I. 海外化学物質規制調査WG

インクジェットプリンターやインクに関わる化学物質規制（EU REACH規則のPFAS制限提案，米国TSCA等）について，各社の対応状況や懸念事項を共有した。

II. 環境対応WG

グリーン購入法基本方針改定案やエコマーク認定基準の見直しに対し，環境省やエコマーク事務局と意見交換を行い，業界意見を提出した。

III. 情報発信および規格対応

- 『情報端末フォーラム2026』において，「2025年におけるプリンター新製品の技術動向」に関する講演を実施し，調査結果を業界へ共有した。
- ISO/TC42/WG5の規格改訂に関する進捗共有など，規格対応が必要な場合に随時参画する体制を維持した。

- エトリア(株)
- 沖電気工業(株)
- キヤノン(株)
- 京セラドキュメントソリューションズ(株)
- コニカミノルタ(株)
- セイコーエプソン(株)
- 富士フイルムビジネスイノベーション(株)
- ブラザー工業(株)
- (株) リコー



3. プリンター新製品の調査と分析に関して

■ 調査

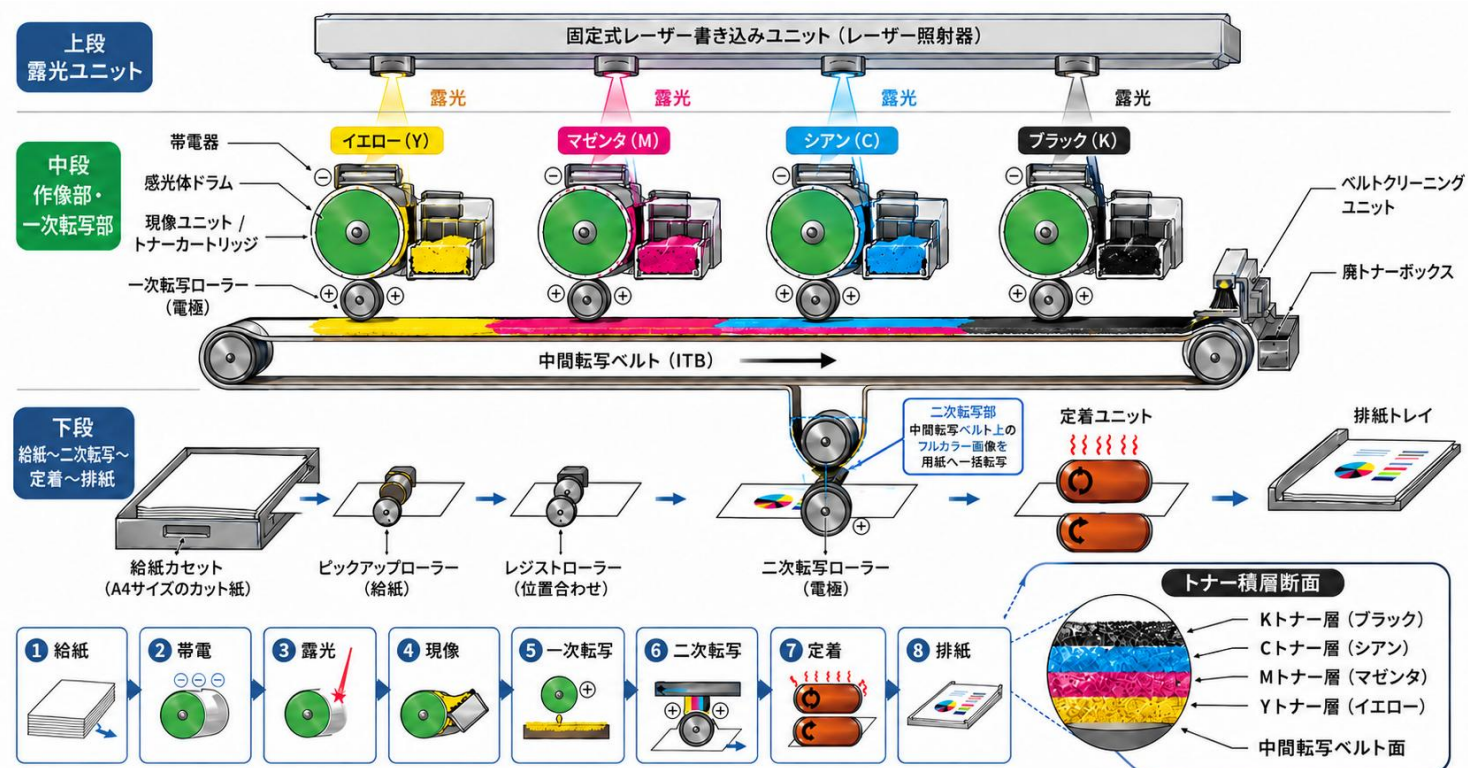
- [2025年1月1日～2025年12月31日](#)に[日本国内](#)で発売されたプリンター新製品の技術仕様を対象として実施した。
- プリンター新製品調査は、当分科会が作成したアンケート形式の『[新製品動向調査票](#)』を各プリンターメーカーへ送付して、回答を頂く形式である。
- 回収された調査票に不足・不備等のあった一部のデータおよび回答のなかった製品に関しては、当分科会の責任において公開情報を元に補完作業を行った。
- 「[SuMPO環境ラベルプログラム動向](#)」に関しては、SuMPO（一般社団法人 サステナブル経営推進機構）が公開されている情報を元に実施した。
- 2025年では、多様化が進むデジタル印刷機の動向調査と分析のため、昨年に続き、インクジェット方式では「大判/ロール紙」に加え、[「紙以外」を対応媒体とするプリンター新製品](#)を調査対象として加えた。

■ 分析

- 回収された2025年の調査票だけではなく、過去の調査結果も含めた分析を行っている。但し、調査・分析の連続性維持などを考慮した分析期間としているため、各方式及び各項目において分析期間が異なることがある。この点に関しては、予めご了承ください。
- 市場分科会での発表内容は国内外主要地域及び全世界での販売台数である。[一方、技術分科会の内容は国内で発売された新製品の機種数であり、傾向が異なることがある。](#)

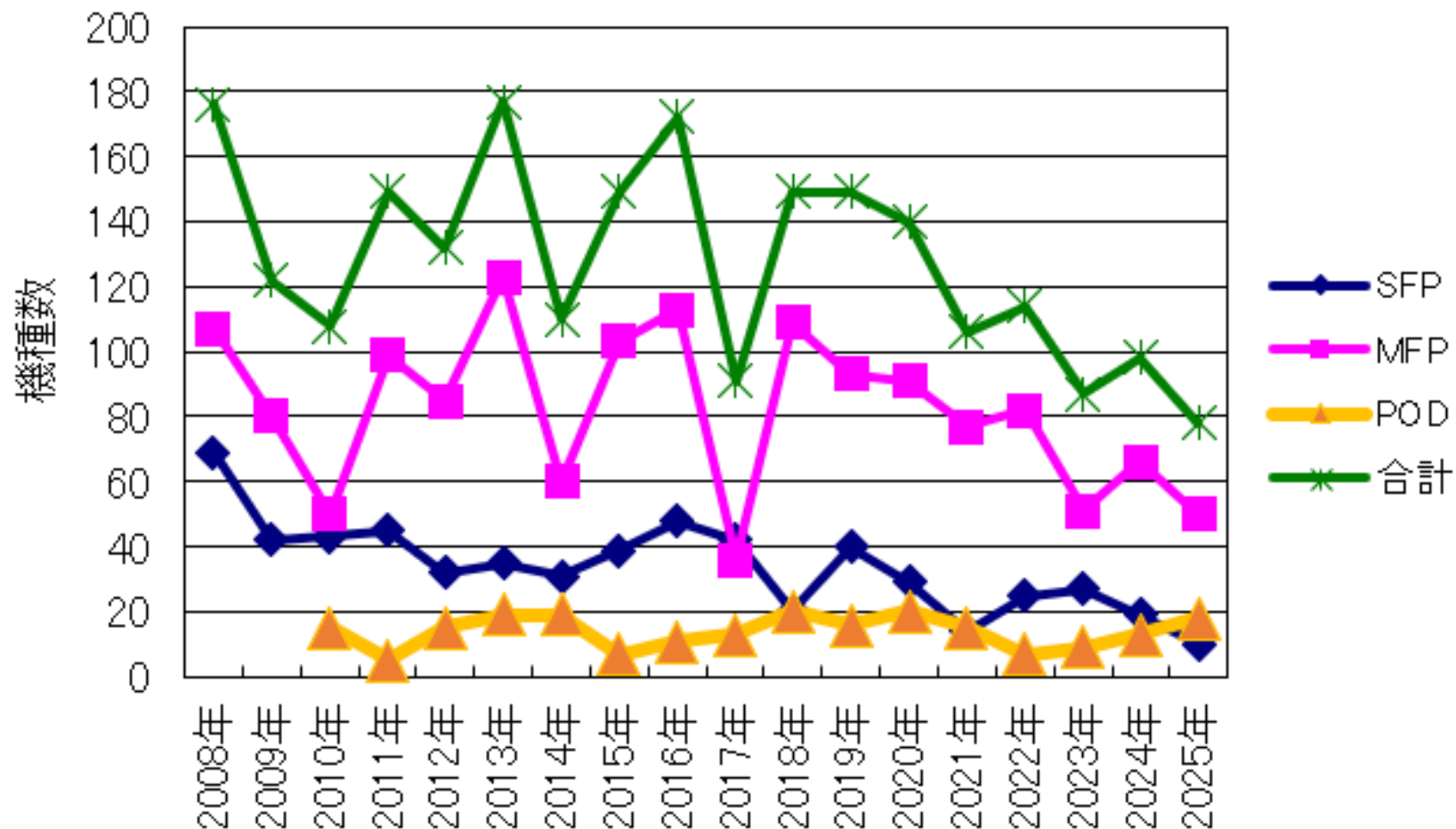
I. 電子写真方式

- i. SFP/MFP/POD分類別の発売機種数
- ii. ネットワークインタフェース/無線LAN規格
- iii. セキュリティ機能
- iv. プリントサービス
- v. クラウド印刷
- vi. スリープ消費電力
- vii. 省エネルギー性能
- viii. プリント速度と読取速度



5. 印刷方式別の技術動向紹介 ～電子写真方式～

SFP/MFP/POD分類別の発売機種数



2025年分類別発売機種数

- I. SFP : 4社 10機種
- II. MFP : 5社 50機種
- III. POD : 4社 18機種
- IV. 合計 : 78機種

推移動向

- ✓ 2013年 (ピーク) 比 56% ↘
- ✓ 2011年以降 ワースト1 機種数
- ✓ 2022年以降 POD 機種数 ↗

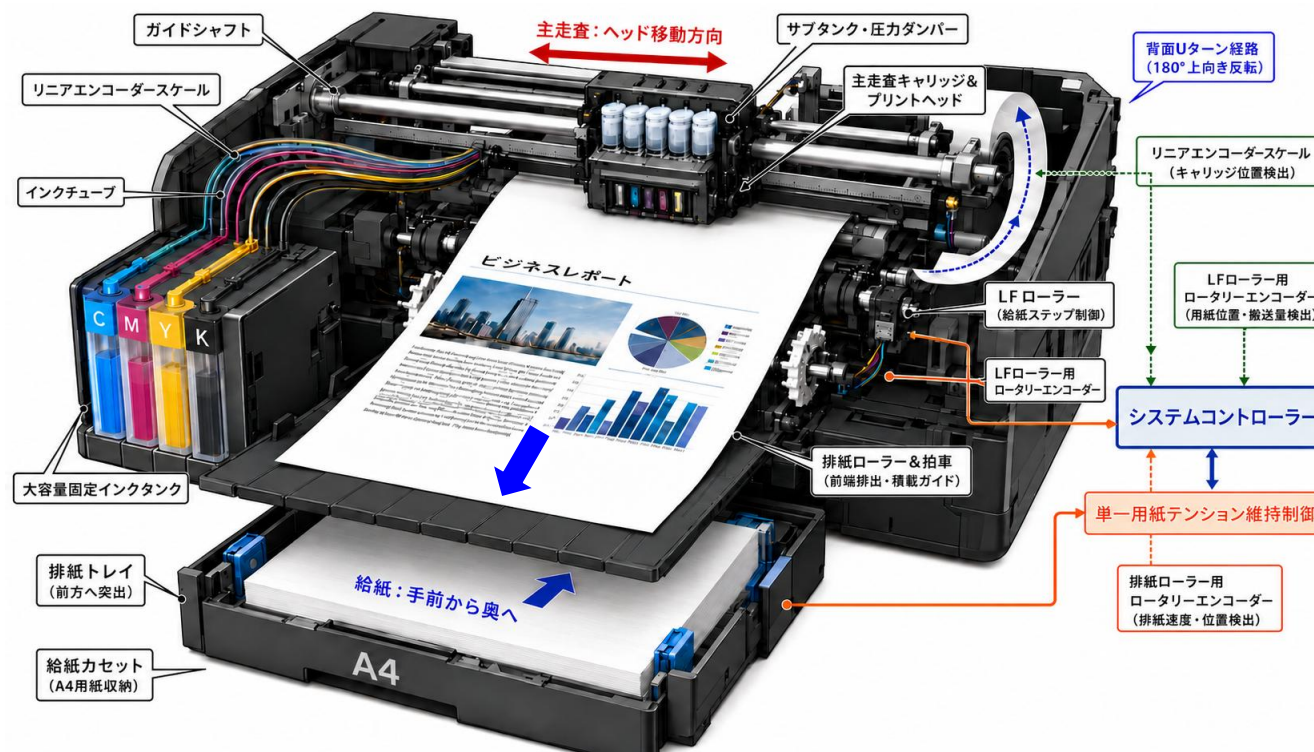
トピック

再生複合機 4機種 リユース訴求

POD 18機種 3年連続 ↗

II. インクジェット方式

- i. 新製品機種カテゴリと 新製品用途カテゴリ
- ii. SFP/MFP/大判・ロール紙/紙以外 分類別の発売機種数
- iii. 2025年新製品特徴
- iv. インク色数/インク種類（紙以外）
- v. ネットワークインタフェース/無線LAN
- vi. セキュリティ機能
- vii. 対応OS/クラウドプリント機能
- viii. 印刷コスト
- ix. 環境マーク（紙以外）



5. 印刷方式別の技術動向紹介 ～インクジェット方式～

新製品機種カテゴリと新製品用途カテゴリ

■ 新製品機種カテゴリ

I. SFP (Single Function Printer)

PC接続を前提とするプリンター、またはメモリーカードスロット等を装備またはデジタルカメラなどの画像入力機器と接続できるプリンターで、対応用紙サイズがA2未満の機種（A4未満のハガキ/写真専用プリンターもこの中に含める）。

II. MFP (Multi Function Printer / Peripheral)

スキャナー機能、コピー機能、ファクシミリ機能のいずれかを搭載したプリンター複合機で、対応用紙サイズがA2未満の機種。

III. 大判/ロール紙

対応用紙サイズがA2以上、またはロール紙の機種。

拡張

IV. 紙以外

対応媒体が紙以外を主とするプリンター。

■ 新製品用途カテゴリ

I. 家庭・個人用 … 一般の家庭向け、個人向けを想定したもの。従来の高画質写真用の機種もこの分類に含む。

II. 事務用 … 一般の事務所向けを想定したもの。

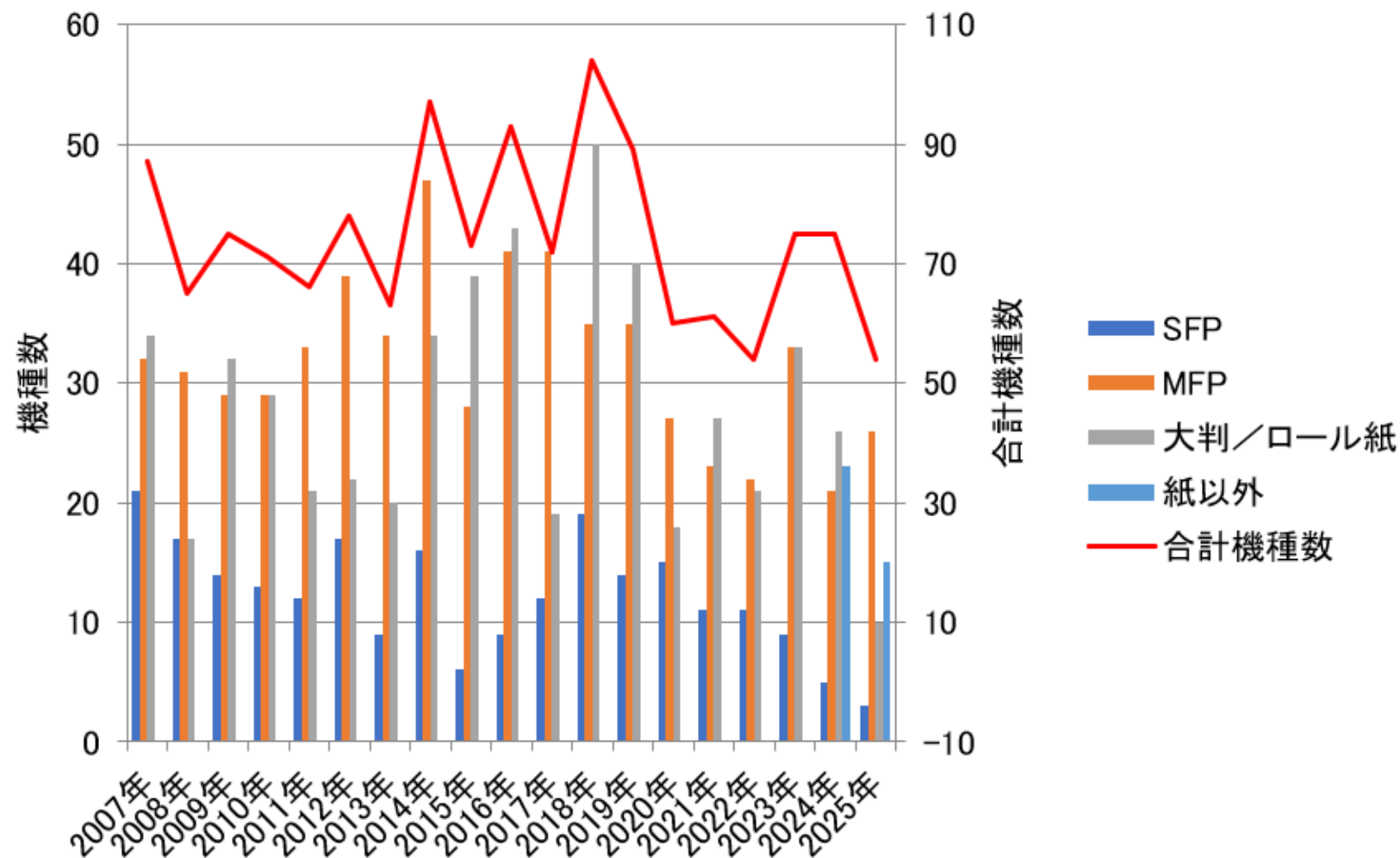
III. 業務用 … 家庭・個人・事務用以外で業務用向けを想定したもの。

拡張

IV. 産業・商業用 … 工業用、製造現場向けを想定したもの。主として印刷物を商品とすることを想定したもの。

5. 印刷方式別の技術動向紹介 ～インクジェット方式～

SFP/MFP/大判・ロール紙/紙以外 分類別の発売機種数



2025年分類別発売機種数

I.	SFP :	1 社	3 機種
II.	MFP :	4 社	2 6 機種
III.	大判/ロール紙 :	4 社	1 0 機種
IV.	紙以外 :	3 社	1 5 機種
V.	合計 :	5 4 機種	

推移動向

- ✓ SFP 前年比 ↓
- ✓ MFP 前年比 ↑
- ✓ 大判/ロール紙 前年比 ↓
- ✓ 紙以外 前年比 ↓
- ✓ 合計 前年比 ↓

プラス要因

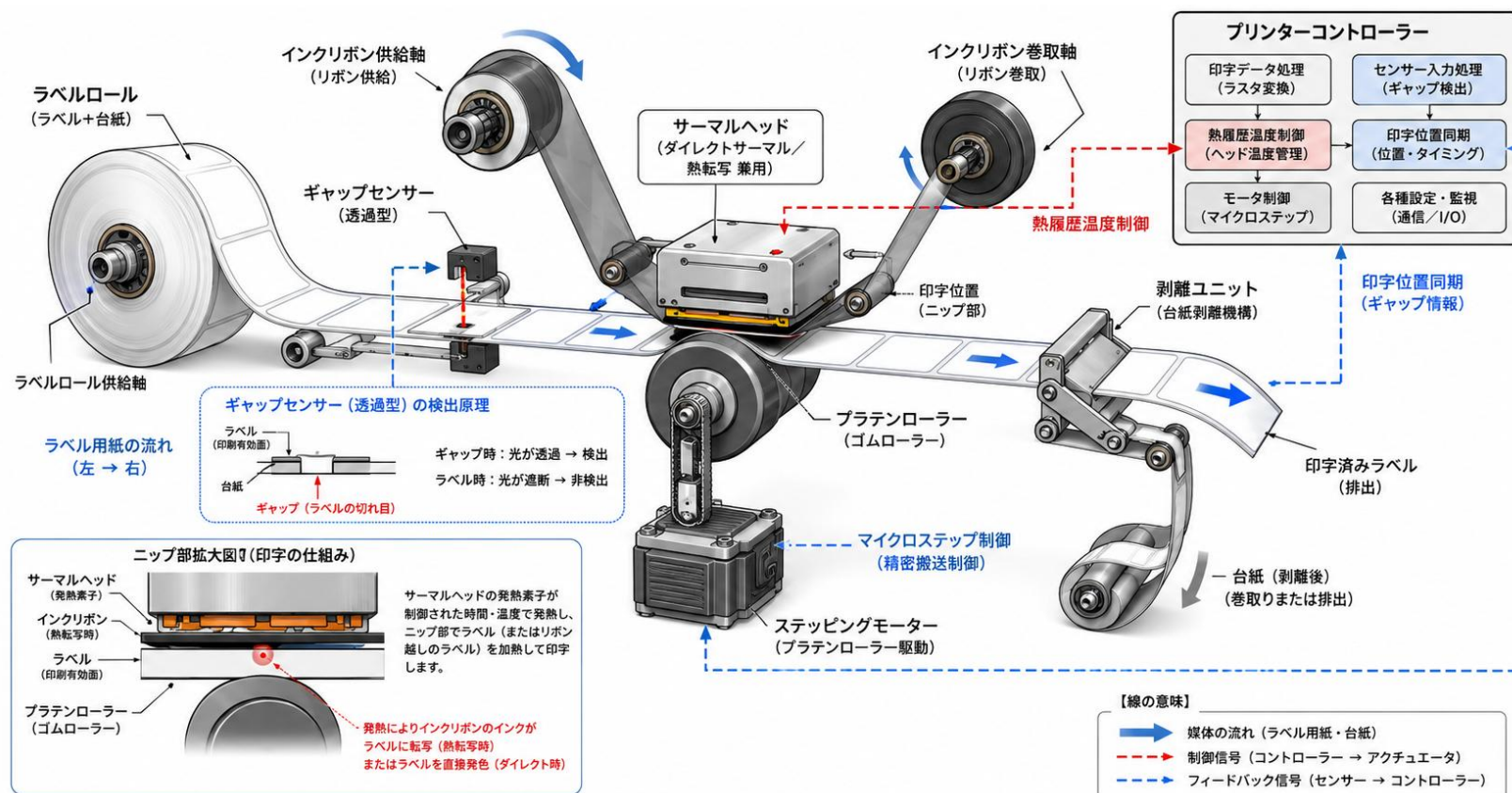
- ✓ 大判/ロール紙 + 紙以外 機種 約46%
- ✓ 産業・商業用プリンターへの高まり

マイナス要因

- ✓ 製造メーカーモデルチェンジ周期の長期化

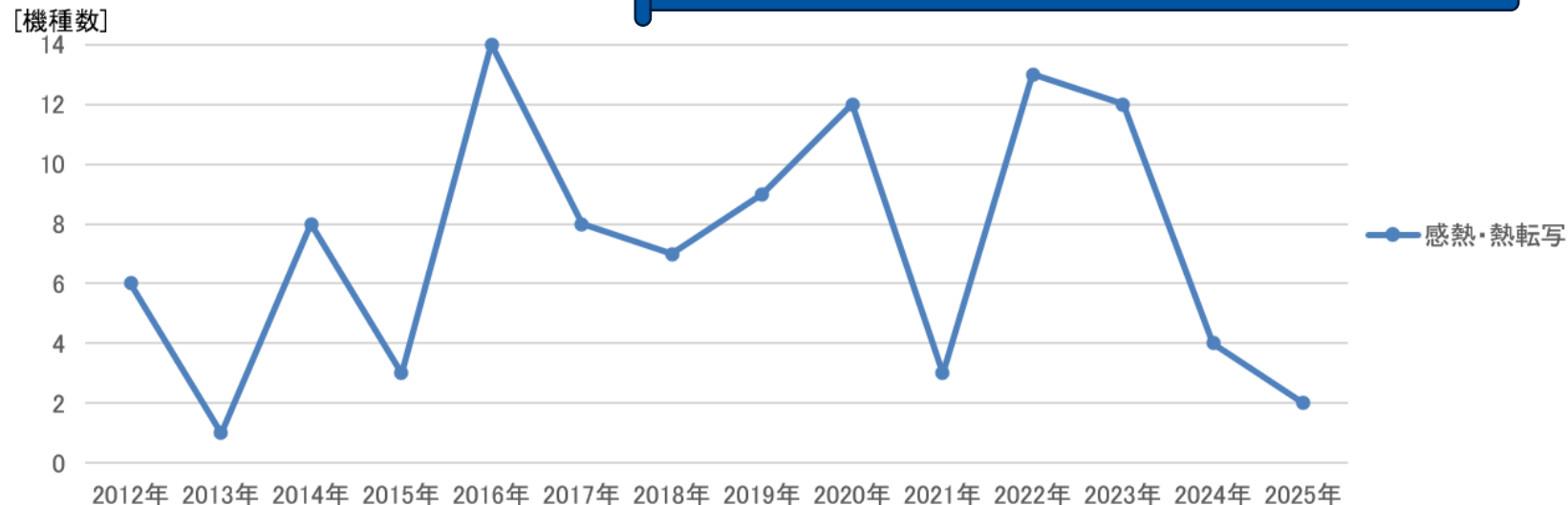
III. 感熱・熱転写方式

i. 発売機種数推移／用途別機種数

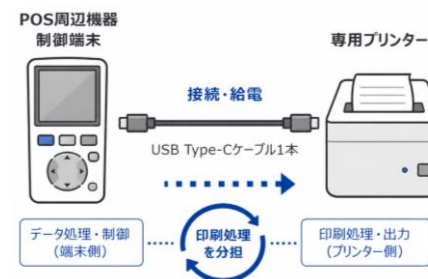
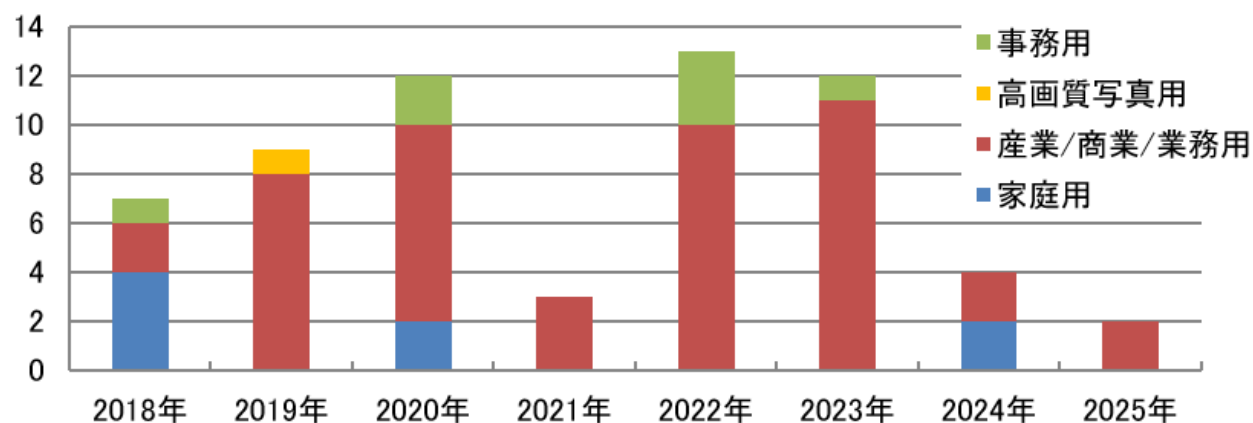


5. 印刷方式別の技術動向紹介 ～感熱・熱転写方式～

発売機種数推移



用途別機種数



発売機種数

- ✓ 1社 2機種

用途別機種数

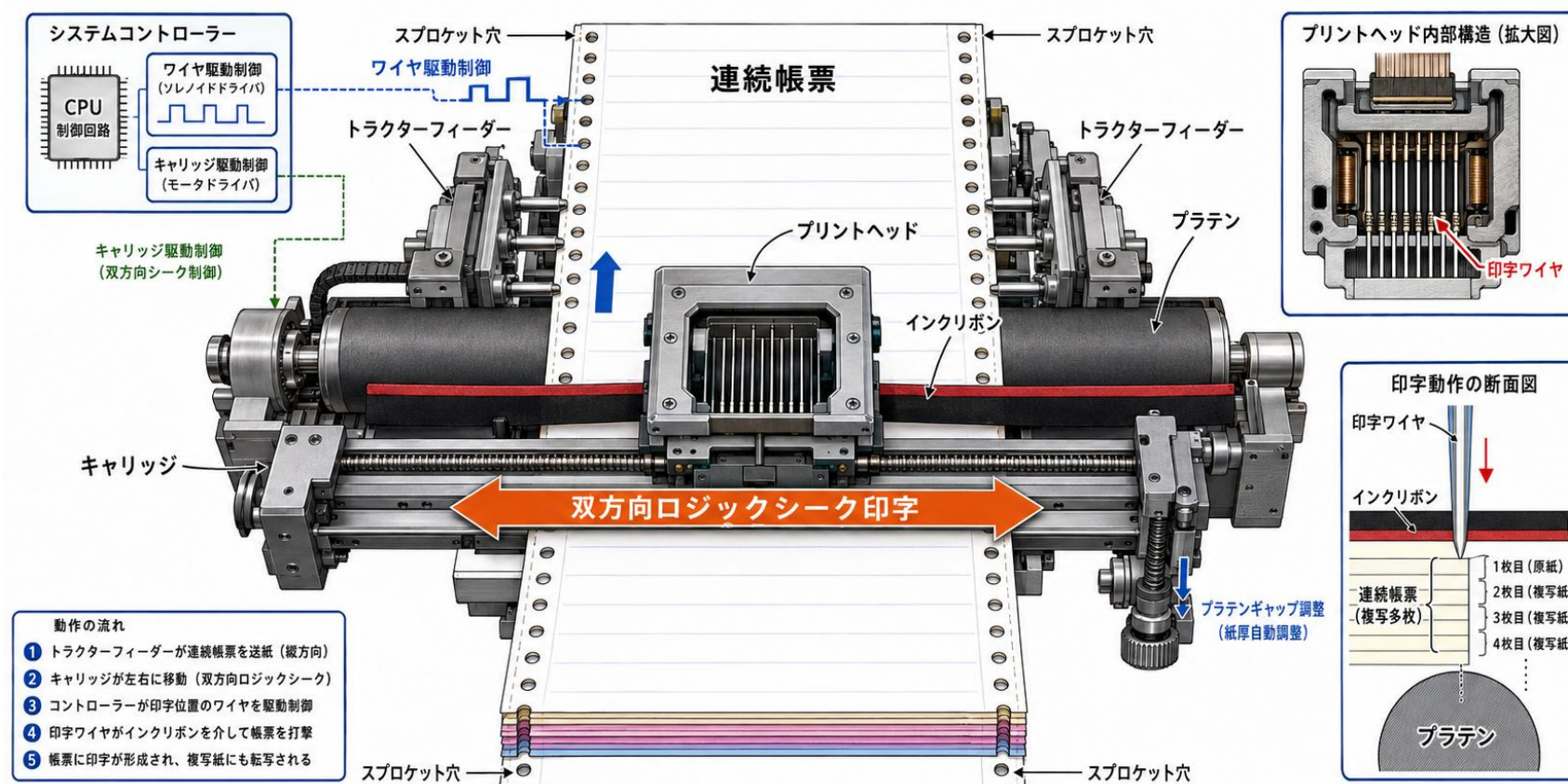
- ✓ 産業/商業/業務用 2機種
- ✓ 家庭用 ゼロ機種
- ✓ 事務用 ゼロ機種

トピック

- ✓ 産業/商業/業務用 (2機種)
モノクロ 感熱方式
- ✓ Bluetooth, IEEE802.11x 対応
- ✓ 携帯端末ダイレクト 対応
- ✓ 参考確認：今後の調査機種範囲を再考予定
POS周辺機器制御端末専用プリンター発売
USB Type-Cケーブル1本で接続・給電
制御端末との印刷処理分担により低価格化

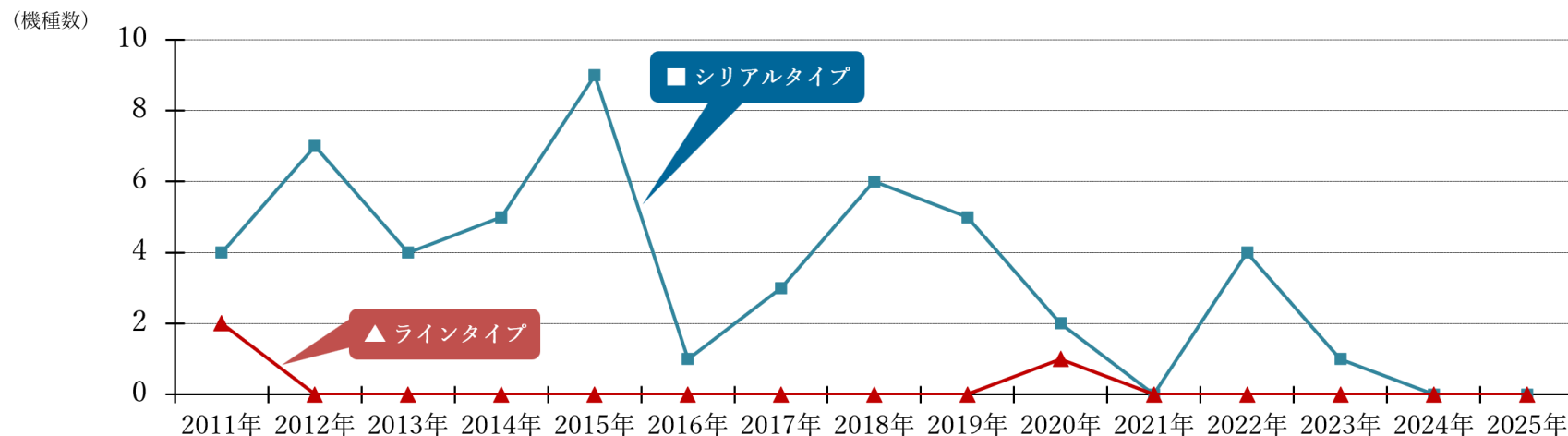
IV. ドットインパクト方式

i. 発売機種数推移／新製品特徴

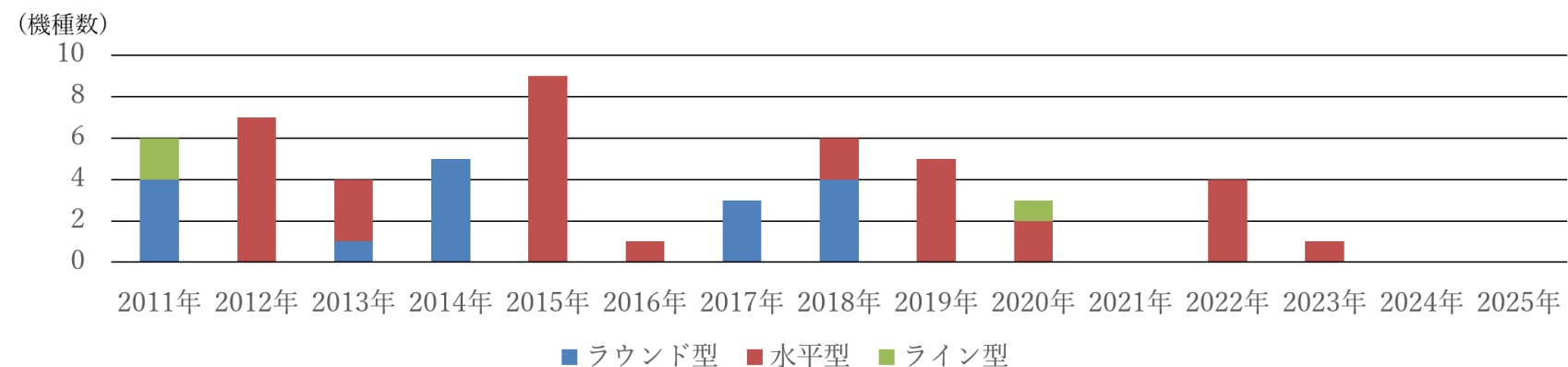


5. 印刷方式別の技術動向紹介 ～ドットインパクト方式～

発売機種数推移



新製品特徴（プリンター構成種類）



発売機種数

- ✓ ゼロ機種

推移動向

- ✓ 長期スパンの機能更新

新製品特徴（全体傾向）

- ✓ シリアルタイプ 水平型 需要有
- ✓ 複写枚数の多い
伝票・請求書の発行業務用途
- ✓ 用紙詰まりが発生しづらい構成

6. プリンター製品における環境ラベルプログラム動向紹介

SuMPO環境ラベルプログラム 調査条件

調査対象期間

- 2025年1月1日～2025年12月31日 ※本調査開始時に公開中

対象製品

- 「認定PCR番号」が「PA-590000-AI」＝“画像入出力機器”の機器
- プリント機能を搭載している機器：プリンターや複合機，ファクシミリ等 ※
※ただし，イメージスキャナー等の画像入力専用機器は対象外とする

その他

- 2024年4月より「エコリーフ」は，「**SuMPO EPD**（Environmental Product Declaration）」に名称変更された為，本調査報告においても対応している。
- 本報告書の分析で利用した2020年から2024年までのデータは，SuMPOのWebサイトで「2020年1月1日～2024年12月31日」の期間に発行され，2025年の調査開始時に公開中の機器を対象にしたものである。

参考先サイト

- <https://ecoleaf-label.jp/>



SuMPO環境ラベルプログラム動向

□ SuMPO登録機種数

□ 気候変動/CFP

□ シナリオ選定製品別CFP算出結果

□ CFPと仕様の相関関係

□ 印刷方式毎の印刷速度とCFPの関係性分析結果

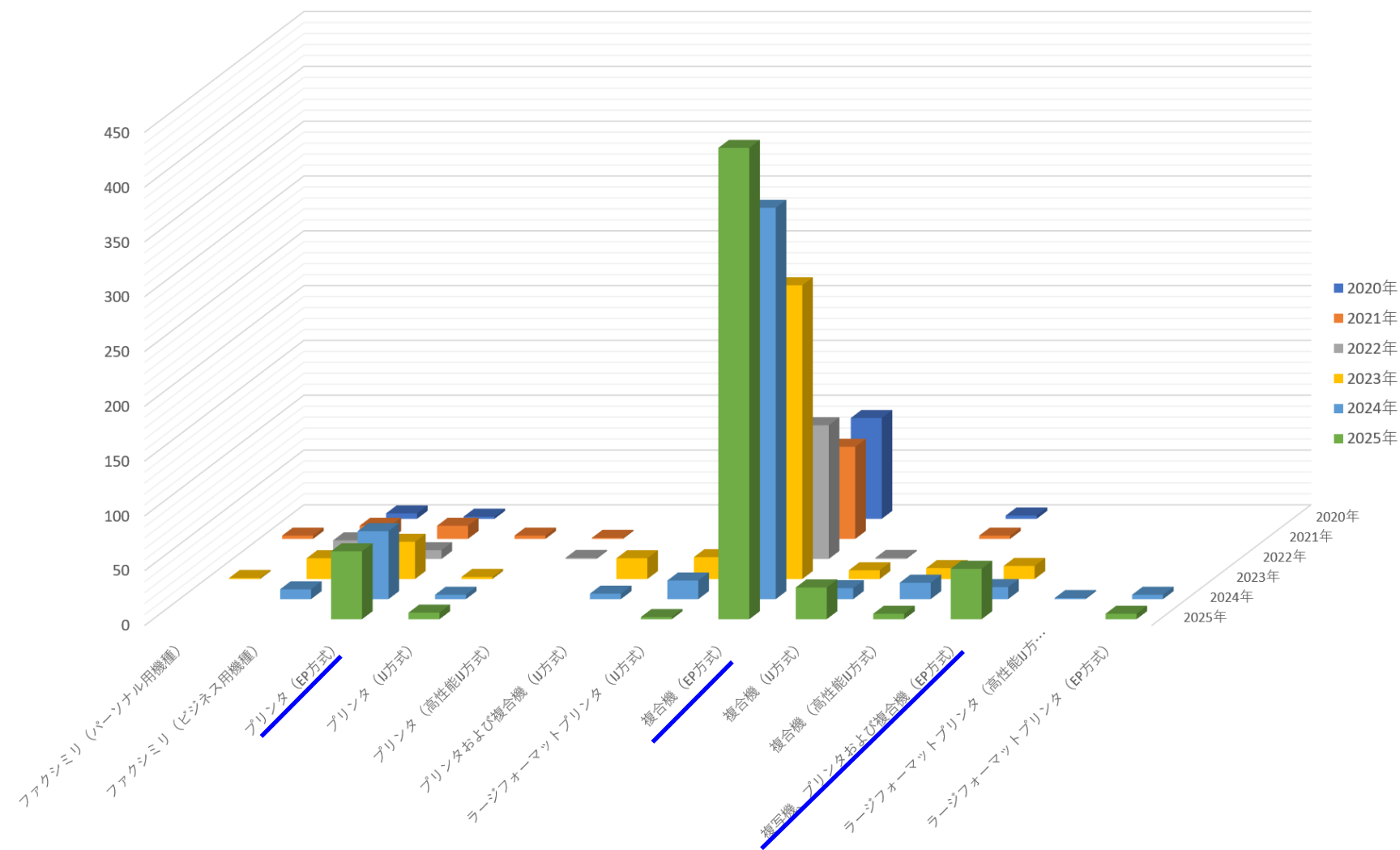
□ 用紙サイズ別，印刷方式別CFP算出結果

□ その他



6. プリンター製品における環境ラベルプログラム動向紹介

シナリオ選定製品別におけるSuMPO登録機種数



調査対象期間

2025年1月1日～2025年12月31日
※本調査開始時に公開中

シナリオ製品別登録機種数

シナリオ選定製品	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ファクシミリ (パーソナル用機種)	0	3	0	1	0	0
ファクシミリ (ビジネス用機種)	5	12	17	19	9	0
プリンタ (EP方式)	2	12	8	34	62	62
プリンタ (IJ方式)	0	3	0	2	4	6
プリンタ (高性能IJ方式)	0	1	1	0	0	0
プリンタおよび複合機 (IJ方式)	0	0	0	19	5	0
ラージフォーマットプリンタ (IJ方式)	0	0	0	20	17	2
複合機 (EP方式)	92	84	122	268	357	430
複合機 (IJ方式)	0	0	1	8	10	29
複合機 (高性能IJ方式)	3	3	0	10	15	5
複写機、プリンタおよび複合機 (EP方式)	0	0	0	12	11	46
ラージフォーマットプリンタ (高性能IJ方式)					1	0
ラージフォーマットプリンタ (EP方式)					4	5

状況

- ✓ 「複合機（EP方式）」, 「プリンタ（EP方式）」, 「複写機、プリンタおよび複合機（EP方式）」の登録数が多い
- ✓ ファクシミリ系機種：ゼロ機種
- ✓ 環境配慮を訴求した製品が増加傾向

7. プリンター専門委員会の活動予定

I. プリンター専門委員会 分科会 活動

- ◆ プリンター市場分科会
- ◆ プリンター技術分科会 ※「プリンター省エネW.G.」は本分科会として活動予定
 - ✓ プリンター環境対応W.G.
 - ✓ プリンター海外化学物質規制調査W.G.



II. プリンター専門委員会 新規活動テーマ

現在，各分科会討議により活動内容の検討を進めている。

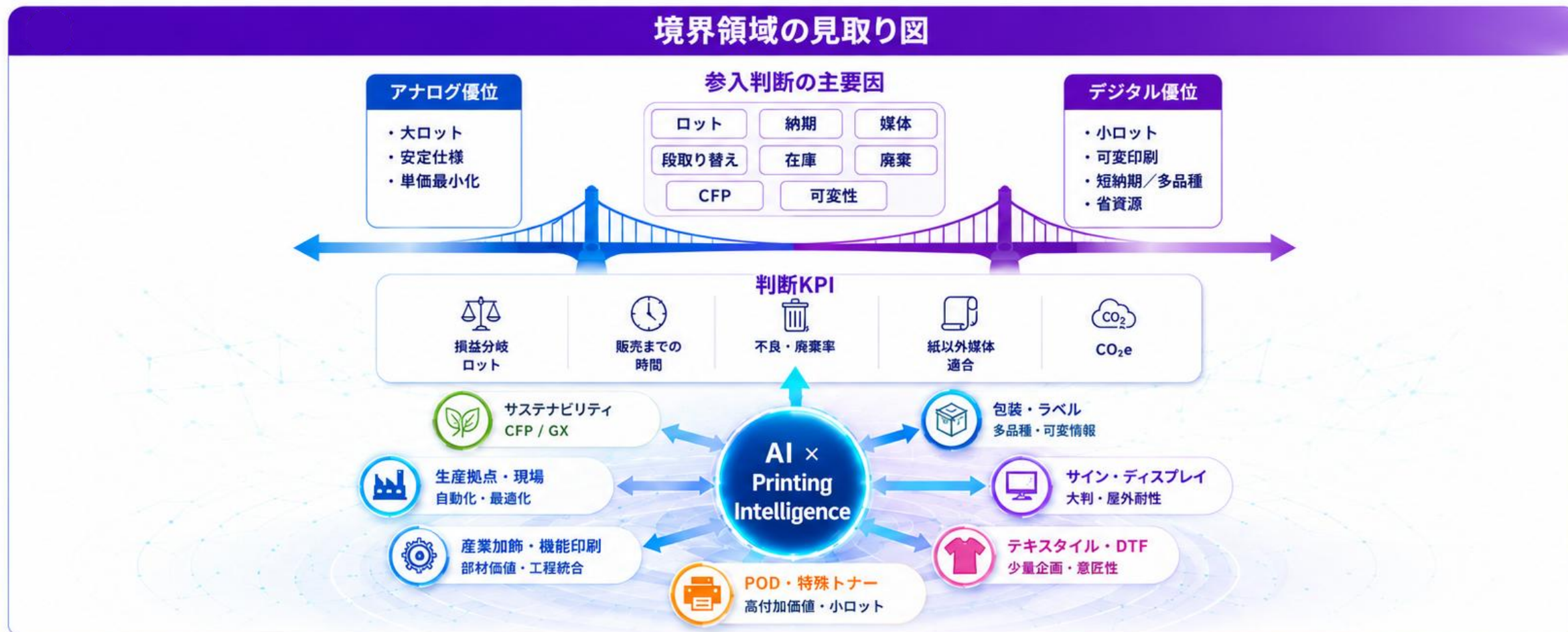
- ◆ 商業・産業用プリンター製品領域への拡大（国内・海外）
- ◆ 印刷の多様化への対応に関する調査分析（紙・メディア情報など）
- ◆ 業種別プリンター製品利用形態調査分析（ソリューション，セキュリティなど）：顧客訪問インタビュー
- ◆ プリンター製品に関する統計データ等の利活用 と 生成 A I 活用検討：データ分析の高度化と知見の導出

《予定している活動概要》

『アナログ印刷⇄デジタル印刷』の境界領域にある「技術的・経済的要因」を統計的に可視化し、デジタル印刷技術の新たな可能性を洞察する。

7. プリンター専門委員会の活動予定：プリンター技術分科会としての今後の重点活動

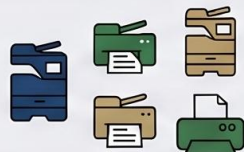
アナログ⇄デジタル印刷の境界領域を「技術仕様 × 経済性 × 環境価値 × AI」で可視化し、新たな価値創造領域を洞察する



2025年度プリンター技術動向調査サマリー：製品価値の再定義と環境価値の見える化

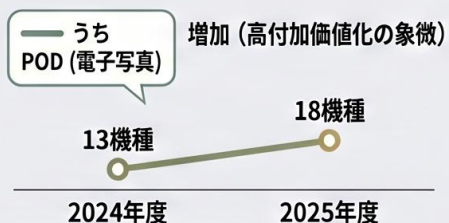
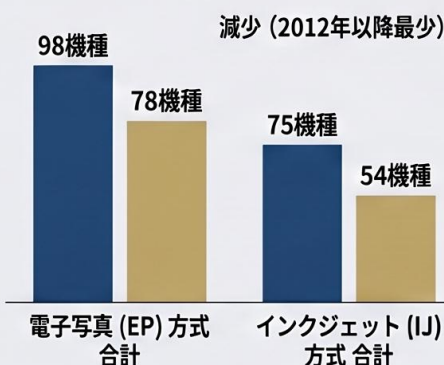
日本のプリンター業界は、ペーパーレス化や働き方の変化に伴う「構造変化への対応局面」にあります。2025年度の調査では、新製品総数が減少する一方で、商業・産業印刷（POD等）や環境情報開示（SuMPO EPD）が新たな価値創出の柱として鮮明になったことを報告します。

市場動向のパラダイムシフト：量から質（用途価値）へ



新製品投入の「抑制」と「選別」の進行

オフィス向けは抑制傾向にあるが、PODや産業用、紙以外への印刷など特定用途へのシフトが完了した。



市場は「用途価値の明確化」を重視する段階へ



業務・産業・商業用が全体の約39%を占有

事務用新製品が過去最少となる中、POD (EP方式) は前年13機種から18機種へ増加。

単なる機種数拡大ではなく、セキュリティ、クラウド連携、環境性能といった付加価値が重視されている。

GX（グリーントランスフォーメーション）：環境価値の必須化

SuMPO登録機種数

過去最多の**585機種**へ



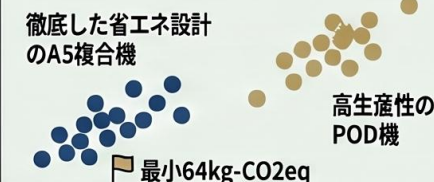
2020年比で約5.7倍に急増し、製品ライフサイクル全体での負荷把握が業界標準となった。

環境情報開示は「付加価値」から「必須要件」へ



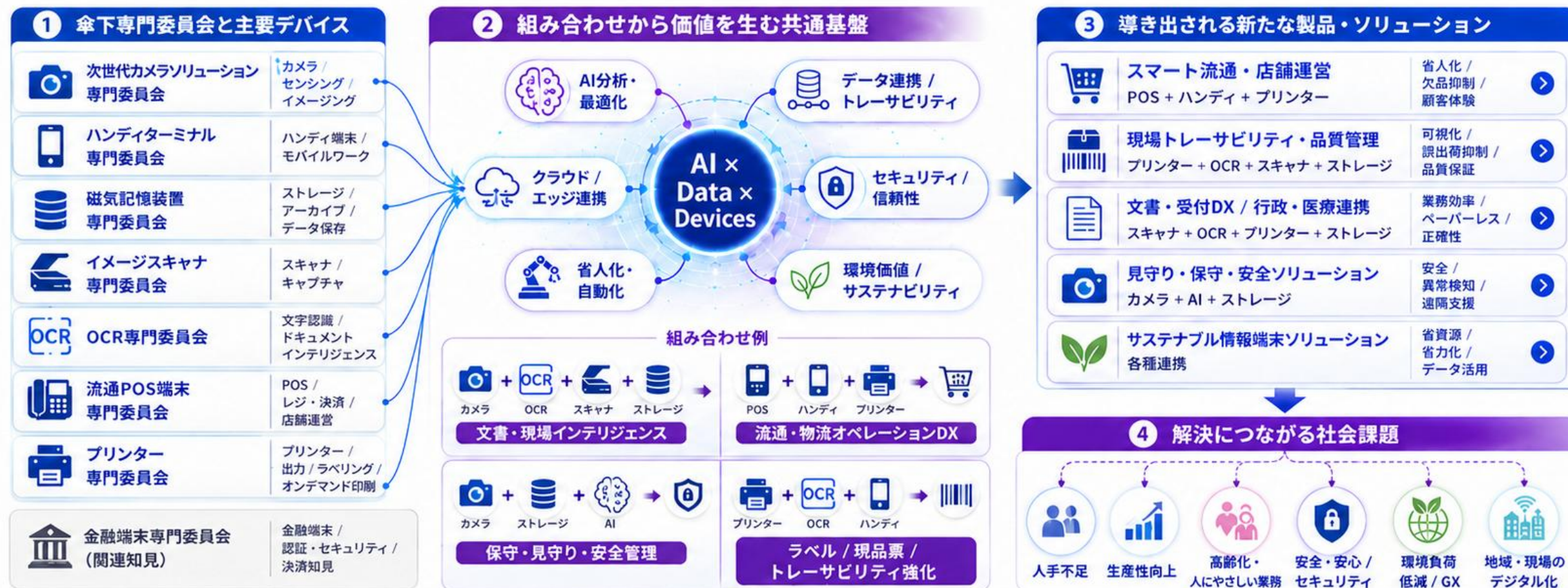
CFP (カーボンフットプリント) の見える化は、企業の調達やサプライチェーン連携における判断基準。

CFP値の二極化が鮮明に



徹底した省エネ設計のA3複合機 (最小64kg-CO2eq) と、高生産性のPOD機での棲み分けが進行。

情報端末事業委員会の傘下専門委員会が扱う製品を組み合わせ、AI・データ・サービス連携によって、社会課題解決へつながる新たな製品・ソリューションを導く



『2025年 プリンター新製品動向 と プリンター技術動向』

プリンター専門委員会 技術分科会

ご清聴有難うございました。

本日発表した内容含め、発表していない新製品プリンター技術の調査報告に関しては、『プリンターに関する調査報告書』にまとめております。
是非お買い求めください。